

調査の概要

各都道府県並びに政令都市教育委員会、各都道府県私立学校担当箇所、所管する高等学校の海外修学旅行並びに修学旅行外の海外研修の実施状況について調査を依頼し、この度以下のとおりまとめた。

なお、海外修学旅行・研修で東京都（私立）、福岡県（私立）の実施状況については本協会の独自調査によった。愛知県の私立学校に関しては、愛知県私立中学高等学校協会の協力を得た。

- (1) 調査の期日 平成16年5月1日現在
- (2) 調査対象 各都道府県並びに政令都市教育委員会と各都道府県私立学校担当箇所
- (3) 調査事項
 - イ．平成15年度海外修学旅行の実施校数、参加生徒数、実施時期、日数、旅行費用、訪問国
 - ロ．平成15年度海外研修の実施校数、研修内容、研修先国名、参加生徒数、実施時期
 - ハ．国内航空機利用修学旅行の実施状況
 - ニ．平成16年度修学旅行の実施基準

平成15年度の海外状況

平成15年2月以降、アジア地域を中心に重症性呼吸器症候群(SARS)が発生し、7月5日に、台湾での最後の症例が隔離されてから、平均の潜伏期間の2倍にあたる20日間が過ぎても新たな症例が発生しなかったことから、WHO(世界保健機構)は世界的な流行が終息したと宣言した。また、3月20日にはアメリカが対イラク軍事行動を発動した。春のSARS流行時には外務省の感染症危険情報「渡航の是非を検討してください(不要不急の渡航の延期をおすすめします)」(WHOの渡航勧告延期の趣旨を盛り込んだもの)や、イラク軍事行動に伴うテロに対する安全情報が出された。

(参考資料：外務省・海外安全ホームページ、厚生労働省・感染症情報センター)

調査の結果概要

1. 平成15年度海外修学旅行の実施状況

400校(公立150校・私立250校)が実施し、64,412人の生徒が参加した。旅行件数は延べ481件(公立150件・私立331件)であった。

旅行先(件数・人数)は、オーストラリア・ニュージーランドが166件・生徒数24,396人で件数比は全体の37.1%、次いで北アメリカ139件・同19,460人・29.6%、ヨーロッパの78件・同8,351人・同15.9%、韓国74件・同9,580人・同15.1%、東南アジア25件・同3,526人・同5.1%であった。

(1) 公立高等学校

150校が実施し参加生徒数は21,577人であった。平成12年度450校、75,730人、平成13年度は、米国同時多発テロ事件の発生による旅行の中止若しくは国内への旅行先変更により206校・30,990人が実施、平成14年度487校・79,045人で、前年と比して337校・57,468人の減少となった。

旅行先(件数)は、北アメリカ(実施件数48件・参加生徒数5,487人、件数比32%)、韓国(39件・5,725人、26%)、オセアニア(36件・6,137人、24%)の3方面で全体の82%を占めている。東南アジアは17件・2,556人、11.3%であった。

(2) 私立高等学校

250校が実施し、実施件数340件、参加生徒数は44,110人であった。

旅行先は、オセアニア(実施件数130件・参加生徒数18,259人、件数比41.4%)が最も多く、次いで北アメリカ(91件・13,973人、31.7%)となっている。ヨーロッパは70件・6,742人、15.3%で、前年度と比べ旅行方面として唯一実施件数が上昇している。

(3) 公私立中学校の状況

一部県において、中学校での海外修学旅行の実施が見うけられ、参考資料として掲載した。

平成15年度は、公私立で60校・4,697人が参加した。旅行方面は、オセアニアが多い。公立中学校では、一部で自治体の費用負担等がある。

2. 平成15年度海外研修の実施状況

学校が主催する語学研修、ホームステイ、教科の特性を生かした実習・研修、姉妹校交流等をまとめた。地方自治体やその他団体が主催する海外研修は含まない。

なお、各県教育委員会、各県私立学校所管部署からのデータを記載し、一部本協会独自の調査データを加えた。

研修内容の区分は、本協会独自の仕訳によった。

703校(公立428校、私立275校)が実施し、参加生徒数は19,457人であった。研修延べ件数は、815件(公立385件、私立430件)であった。

研修先国はオセアニアが公立197件(件数比51.2%)、私立172件(同41.5%)と半数近くを占め、あい変わらずオーストラリアが圧倒的に多い。次いでアメリカ・カナダの北アメリカ(214件・26.3%)、そしてヨーロッパが多く、前年度と傾向としては変わっていない。

研修内容は、ホームステイ・語学研修が502件と多く、公立では全件数の56%、私立で68%となっている。学科の特性として、公立では農業実習、福祉施設訪問、音

楽レッスン等、私立では調理実習、病院施設訪問等が行われている。

公立高校においては、複数校が同一研修に参加している事例が多く、件数は校数に比して少なくなっている。

(1) 公立高等学校

428校(385件)が実施し参加生徒数は7,535人であった。

研修先国はオセアニアが49%と最も多く、252件の実施を数える。次いでアメリカ本土・カナダを中心とした北アメリカ23.0%(118件)、ヨーロッパ8.9%(46件)が多い。

研修内容は、ホームステイ・語学研修が49.4%と半数近くを占めている。次いで国際交流・国際理解が25.7%、学校間交流13.8%が多い。

(2) 私立高等学校

275校(430件)が実施し、参加生徒数は12,213人であった。研修先国は、オセアニアが45.6%(244件)と最も多く、北アメリカの28.0%(150件)、ヨーロッパ14.8%(79件)となっている。公立と比べ、アメリカ・ヨーロッパの比率が高い。

研修内容は、ホームステイ・語学研修が71.2%と圧倒的に多い。次いで国際交流・国際理解を目的とした研修が9.3%となっている。その他長期・短期の留学が6.7%、学校間交流5.1%となっている。

(3) 公私立中学校の状況

221校で実施され、実施件数は205件、生徒数4,893人であった。公立では、国際交流・異文化理解を中心とした体験学習としての実施が多い。費用も自治体が全額負担や一部負担のケースがある。私立ではホームステイ・語学研修が最も多い。また、一部では高校と合同で実施されているところもある。

3. 平成16年度修学旅行実施基準の概要

ア. 海外修学旅行の許可状況

横浜市で本年度から試行となり、44都道府県13政令指定都市が海外を許可及び試行している。未許可は、茨城・栃木・埼玉の3県となっている。

イ. 旅行実施基準

中等教育学校の設置に伴い、長崎県で県立中学校の実施基準を高等学校に準ずるとしている。

横浜市で、本年度から海外修学旅行が試行された。